校友時報

昭和44年3月1日
編集人兼発行所
秋田県能代市追分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

部説

初心にかえるべき高校生活

誰しもが希望に胸を躍らせて入学した高校。しかし、入学して一年、二年ほど経過するに従って「高校生活は単純である。毎日学校と家を往復しているだけだ」とか「高校は予備校のようなものだ」などという声がさかんに聞かれるようになる。必ずしも、本校に限ったことではない。高校生と言える人ならば、一度は誰でも考えたことがあるだろう。現にテレビ・雑誌などでこれに関連した多くの問題が取り上げられていることからもわかる。

例年の如く本年度も無事卒業式が、本日挙行される。この時に直面してほとんどの卒業生は自分の高校生活を振り返り、あり一時の感動、目的に向って苦心した事など、とり留めもないように思い出されることだろう。しかしここで注目したいのは、毎年のように卒業される人たちのなかには、この高校生活に少なからずの疑問をいだいて去っていく者もあるということである。それではここで、これについてのある卒業生の声を聞いてみよう。

「一、二年の時クラブに参加してとっても楽しかったが、三年の初期退部した後はあまりおもしろくなかった」とか「何よりも初期の目的を達成できなかったのが残念である」以上の二人の話によってもわかるように、各自それぞれの立場において必ずしも有意義な高校生活ではなかったようである。

ところで、人生において最も貴重であるべき高校生活に対する不信感がなぜ生まれてくるのだろうか。これを考えるにはまず、我々が何の目的で高校に入学したのかはっきり確認する必要があるのではないだろうか。しかし、意外にも周囲の抜きさしならぬ環境のために、なるがままに身をまかせて入学した思われる人が多いのである。そしてさて、高校生活に一抹の不安をいだき、これが当然であるかのように「高校生活は単純だ」などと語っている。

高校時代、すなわち十代の後半が人生で最大の時期であることは多くの年輩が指摘していることからも明らかである。なぜならば自分なりの考えがほぼ定まる時期であるから、将来の方針がほぼ決まるから。

ではいかにして、この時期を過ごしたらよいのだろうか。各自それぞれの考え、行動力を持っているだろうが、特に述べる必要もないだろうが、一般的に言うと、〝クラブ活動参加〟などはどうだろう。部員が一体になってある目標をめざして努力する。この純粋な精神を養う事こそ我々をひたすらにひきつけるのだろう。クラブ活動に限った事ではない。趣味でも、学習でもその他何でもよいのである。我々が心身を傾ける対の物を作り上げるか、持つかということが、人生は単純だ、などと語ることの無意味さを知る。予備校の存在が、異物感を与えなくなったのが今の世だ。加えて大学紛争の波紋は直接及んでくる。この時点で諸君はどんな生活をするだろうか。

諸君は今、生まれ年で数えると、十二支の二週目の半ばにある。青年期のこの時期をいかに過ごすかは、二諸君の生活にかかっている。今の高校生は勉強していると思う。少くとも私たちの世代よりは、はるかに勉強している。それだけに社会の競争が苛烈をきわめていることを知る。予備校の存在が、異物感を与えなくなったのが今の世だ。加えて大学紛争の波紋は直接及んでくる。この時点で諸君はどんな生活をするだろうか。

いう問題も我々高校生にとって大いに興味ある所だった。と同時に我々の問題でもあった。しかし、それよりももっと我々高校生が考えねばならぬこと。それは〝何のための東大紛争だったろう〟ということである。あの日の学生たちが機動隊に示めした激しい抵抗、ゲバ棒・火炎ビン・投石。原始的な武器ではあったが攻防戦はすさまじいものがあった。▼ようやく排除されたあの日の安田講堂の屋上には、いつの間にか、赤旗に代って日本の国旗、日の丸がなびいとなのである。また「初心の大望」を絶えず思いおこしてそれに近づこうとがんばることも必要である。〝卒業〟という文字が来てからはもう遅い。その前に自分独自の高校生活を最も有意義に過ごしたいものである。

三点

▼一月二十日、ようやく実にようやくという言葉がぴったりするほど、もめにもめた東大紛争も、警官隊導入による占拠学生の排除、封鎖解除により、まず一段階をふむことができた。だが、この一段階という言葉、東大紛争の根本的な問題には全然触れていない。〝まずはホッ〟という感じだ。▼世間の風当りもすごい。入試中止か復活かと

時評

時間の忘却

大山行夫

二月の声をきくと、三年生にとっては高校最後のテストが始まる。早いものだ。今年の三月一日は、私にとっては十二回目の青年たちを学び舎から送る日になる。実に早いものだと思う。

赤ん坊が、自分の生まれ年を迎えるまでの時間は長い。この間の時の刻みは決して早くはない。そこには乳児から小学校六年までの歴史がある。私の教師としての歴史は、十二支でいう生まれ年に当る。時の流れを「早いものだ」と感じるのは、その人の生活体験にもとづく主観による判断で、物理的な時の刻みを感じるのではない。現在の私は、時の流れを「早い」と感じている。それは私がこの十二支の一巡する期間を無為に、ふわふわと生活してきたからに違いない。この調子で行くと、「四十八歳の抵抗」もなく、還暦の頃には「早いものだ、早いものだ。」とぼやいている姿が予測され、肌寒い感じがする。

最近、中学生の数学の問題を解かせられたことがある。相似や比例の法則を応用して面積を比を求めたりする問題を解くのは久しぶりであった。記憶をたどりもとすまで、時間がかかったが図形に補助線を引く楽しみが蘇ってくる。しばらく時間を忘れた。時間を忘れて仕事に没頭した後では、やはり時間の経過を「早い」と感じる。が、こういう感じ方は、「早いものだ」と概嘆する時間の早さとは異質のものだ。時間の忘却による時間の早さを、生活の中で多く持たら、「早いものだ」と詠嘆なくて済むだろう。

「早い」ようだ。しかし、「早い」と判断するのは諸君でなければならない。

激流の現代を「早い」と感じるかどうかは、その人の生活による判断である。

寒中の真夜、机を離れて熱した頭を冷やしながら天空を仰ぐと、オリオンの星座が美しい。そういう時に、レオナルド・ダ・ヴィンチや、パスカルの多芸を羨むのはアナクロニズムのそしりを免れないだろう。しかしそこには短いが、時間の忘却がある。（四四・二・一）

（国語科）

私が諸君に自信をもって言えることはあまりない。敢えて言えば、〝いつでも「傍観者の無責任」には気をつけなさい。〟と。大学紛争に対するジャーナリスムの種々の批評や意見の多くは、所詮、「傍観者の無責任」な放言と大同小異である。与えられた境遇に生き、巻き込まれた事件の波紋を静めるのはまず当事者の生活であろう。コースの多様化のあおりをうけて文科・理科と迷い、テストに追われて終わる諸君の三年間は

学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

◎皆勤賞

三年A組　荒谷　峰由
池内　益雄
伊藤　博之
梅田栄太美
笠井　和男
工藤　由清

三年C組　佐藤喜久雄
堀田　和成

三年D組　神尾　修
田中　一美
見上　春雄

三年E組　村岡　邦明

三年F組　石井　茂
清水富美夫
薩摩　司
保坂　政二

三年G組　阿部　清
石岡　仁志
近藤　保也
佐藤　清美
下坂　節男
能上　典男
福原　秀就
松島　公生

春が呼んでいる
スポーツ用品は
能代スポーツ
柳町 T 2－4613

祝御卒業
友情をキャッチするカメラ
DPE
三羊堂
畠町 T 2－4946

あなたの健康管理は
おまかせ下さい！
市民の薬局
みどり薬局
通町 T 2－3531

洋菓子のエース
直伝カステラ
エーワンベーカリー
上町 T 2—2343

健康を飲もう
明治牛乳を飲もう
菅原牛乳店
通町 T 2－3851

メガネ　カモヤ
畠町 T 2—3740